



<センター通信2月号>

～地域総合医療センター活動報告～

中津川市地域総合医療センター 高橋春光

まだまだ朝夕の冷え込みが厳しく、中津川市でもインフルエンザの流行が継続しています。今回は、この場をお借りして、センターの今までの活動を報告させていただきます。

中津川市と名古屋大学総合診療科(以下名大総診)との官学連携による地域医療活性化のモデルを目指す新たな取り組みとして、平成23年4月1日に一般行政組織「中津川市地域総合医療センター」が、平成24年3月には名大に寄附講座「地域総合ヘルスケアシステム開発講座」が開設されました。地域住民の皆様が“信頼の医療と安心のケア”を手に入れることをサポートするための組織で、①総合診療医による診療支援、②地域包括ケアの推進、③総合診療医の育成を三つの柱としています。

1. 今までの活動

このセンターの支援により、平成16年より名大総診として支援していた国保川上診療所に加え、平成23年4月より中津川市民病院に総診外来を開設し、合わせて阿木診療所の診療支援を開始しました。平成24年4月には中津川市民病院に総診病棟を開設するとともに、国保坂下病院地域医療科の外来支援も開始いたしました。

①総合診療医による診療支援

総診外来では、専門内科として、紹介状のない初診患者への対応、紹介の窓口として初期対応を行っています。具体的には、感冒・頭痛などの一般的な疾患、問題がまだ明確でない患者、受診すべき専門科がない患者、他医療機関からの紹介の窓口、専門科の指定がない紹介、健診・人間ドック異常、そのほか当院通院患者の臨時受診、救急外来患者の専門科指定のない再診などです。

総診病棟については、平成24年度に開設されましたが、そのほとんどが救急入院含めた予定外入院でした。中津川市民病院において呼吸器内科が非常勤体制であることを反映し、入院患者の半数以上が呼吸器系疾患、肺炎が最多でした。

東濃東部の中核病院、急性期病院である中津川市民病院において、総診はかか

りつけ医の窓口として、また専門内科として、非常勤体制の呼吸器内科の入院診療を中心にその役割を果たしていると言えます。

②地域包括ケアの推進

中津川市の地域特性を踏まえた地域医療の取り組み、病診連携、地域住民の皆様への啓発活動(シンポジウム、講演会、ワークショップなど)を中心に行いました。

③教育活動

“地域で医療人を育てる”ことを目標に、総合診療医育成のため、卒前教育(名大、他大学)、卒後教育(中津川市民病院初期研修医、名大総診総合診療医養成プログラム)を行っており、内科再トレーニング、医師会の先生方対象の勉強会などを行いました。また多職種連携地域医療教育(行政、病院職員、救急、在宅医療、介護・福祉など)、市民の皆様を対象とした教育(医療職体験イベント「メディカルキッズ」)も行いました。

2. 今後のセンターの展開

平成 27 年度 4 月の阿木診療所の市民病院から国保への移管、平成 28 年度 4 月より国保蛭川診療所の診療支援開始をもって、センターによる中津川市 3 公立診療所の一括運営、診療支援が予定されており、地域総合ヘルスケアシステムの構築を目指し、地域住民の皆様の窓口として、センターの重要性はますます高まると考えられます。その活動は今後も医療に限定せず、多職種教育、さらに研究、地域貢献にも今後拡大していく必要があると考えています。

(文責 高橋春光)